

建設工事事故データベース

工事分野	工事の種類	工事の種類	工種	工法・形式名	災害分類	事故分類	天候	事故発生年・月・時間	事故発生場所(都道府県)	事故に至る経緯と事故の状況	事故の要因(背景も含む)	事故発生後の対策
1	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	飛来、落下	曇り	2019年8月9時	北海道	防雪棚天端の幅止材を外す作業中に作業員が手を滑らせて幅止材を落とす。支柱と幅止材の間に差指を挟み負傷した。	初めての作業に従事する作業員だったため、確認と安全意識の不足が主だった要因と考察する。	安全大会を実施。あわせて再発防止に向けた役員委員会を開催した。
18	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	墜落	晴	2019年5月10時	北海道	現場事務所内において安全掲示板の足場を監視技術者と被災者が足場で組立作業を行っている際、被災者が足場の裏側に地面に降りようとした際に、アームロックを固定する際に左手乗指の指輪が引っ掛かり、指の付け根を負傷した。	昇降設備を設置されており、危険箇所という認識が不足していた。	昇降設備を設置し、作業手順書を作成して作業前に確認する。安全掲示板の組立作業では2名で組立作業を行うほか補助員1名を配置する。全掲示板組立作業でも組立図を作成する。作業指揮者を指名して、その者に直接指導させ関係労働者以外の区域への立入を禁止する。
20	建築	建築一式	建築一式工事	建築一式工(1)	労働災害	墜落		2019年5月14時	北海道	被災者が2階上部天井裏においてチャンパン一回壁の地下取付作業中に、職長から下部への火花飛散防止のための防火養生シートを下階から運搬するよう指示を受け、それを運搬中、作業場と隣接する開口部から2階床まで墜落し負傷した。	元請けは床開口部を鋼製布板で養生をしていたが、職長は重上げ作業の障害になるため、床開口養生を元請けへ報告せず勝手に撤去し、開口部に薄ベニヤを敷き込み火花養生を行った。被災者は、床開口部に近接した敷居プレースの間を前足で踏いた際、床の配りにより、開口部側にバランスを崩したと思われる。また、開口部近傍を通行する時に縦綱は設置されていたが、安全帯を使用していなかった。	高所作業場の安全巡回・是正・墜落防止対策の強化。空調用壁ダクト床開口部の内部に足場を組立て、落下高さが2m未満となる養生施設設計・整備。全施設設備を専属対応する作業員を専任させ既設施設を点検し整備。開口部養生を容易に撤去出来ないよう固定し具体的な注意喚起表示を実施。必ず守ることとして、作業計画を、紙に書いたもので確認し、仮設養生材・足場は一切撤去しない。床開口養生は固定し注意喚起表示を張る。再徹底。違反時レトリックカードの運用により、当事者と職長は強制退場による再発防止強化。
23	港湾	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	外郭施設	労働災害	飛来、落下	晴	2019年5月16時	北海道	移動式クレーンの作業終了後、休車姿勢とするため主巻フックを直立状態で地面に置き、地表まで下げたブーム先端が地面に接触しないよう作業員が杖木を配置していたが、重ね置いた杖木がずれたため、フックを置いた側に立ち入ったがフックに背を向け置き置いていたところ、フックがゆっゆりと倒れ被災者の腕に衝突した。その様子を目撃した合図者や他の作業員がとっさにフックを止めた被災者は下敷きを免れた。	クレーンを休車姿勢にさせる「片付け作業」の作業手順の不備、主巻フックを直立状態で地面に置くための地盤状態の確認不足が主な要因である。	作業手順書に、主巻フックを横置きするよう追記した。杖木の位置決めをブーム降下前に行い、移動式クレーン作業計画書に片付け作業中の立入禁止範囲を明確化した。
35	河川	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	第三者災害	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2019年5月10時	北海道	伐木運搬作業で荷卸しを完了し積込場所へ戻る途中、ユニック車のブームを下ろさないまま走行し鉄道築線に接触し事故が発生した。	作業員の欠員が生じ、人員配置等の見直しが行われなかったため、安全確認が不足し事故を発生させてしまった。伐木荷下ろし完了後の走行前点検において、指差し呼称等の明確な確認方法がとられていなかった。	作業員の配置が変更になった場合は、再度手順書の周知確認を徹底する。また、手順書には、明確な点検内容、方法を追記し再周知する。作業員に欠員が生じ、予定の人員配置が行えない場合は、現場代理人のみで作業継続の判断を行うのではなく、社内協議のうえ、作業方法の見直し、作業中止を判断する。
49	河川				労働災害	墜落	曇り	2019年6月11時	北海道	縦門の翼壁コンクリート天端の斜面を下る際、足を滑らせて斜面を滑り落ち負傷した。	翼壁斜面は勾配急で急が寒湿しており、滑りやすい状況になっていたにも関わらず、迂回せず直進して斜面を下った。KY活動を行っていなかった。安全管理規程規定で、安全ルートを確保できない限り実施しない指導を行っていたが、危険性の回避に必要な対応は十分ではなかった。	高所作業場を行うため、作業時には、水叩き又は水浴室内に降りて、水叩き又は水浴室内に降りる際は、原則、近傍の階段工を利用する。階段工が未設置で止む法面上を下るときは必要十分な準備をし、翼壁より離れ、斜面が滑らないことを確認または滑らない措置を講じようとする。縦門のコンクリート面等の滑りやすい箇所は滑らない。安全管理規程を再周知するとともに、上記項目の内容を記した作業手順書および巡視時の危険箇所のヒヤリマップを作成し、巡視員、運転補助員に周知し、安全教育を徹底する。巡視作業時には、作業手順書、ヒヤリマップを確認すると共に安全確認チェックシートにて巡視時の確認事項を注意喚起事項として、危険箇所を必ず確認する。労務の安全教育等において、今回の事故事例を加え、緊急安全ミーティングを実施して教育訓練による再発防止を図ると共に研修会等を適宜開催し、巡視員の安全意識高揚を図る。
66	河川	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	もらい事故	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2019年6月17時	北海道			
70	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	もらい事故	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2019年6月3時	北海道	1車線規制による夜間作業にて高欄撤去作業中に規制内にトレーラーが突っ込み、工事関係車輛が巻き込まれ、トレーラーと共に仮設ガードレールを突き破り、高欄を取り外した地盤から河川に落下。作業員が転倒し右手首を負傷。	一般車輛ドライバーの臨見運転による前方不注意での交通事故	緊急安全大会を開催し、道路規制内での交通事故再発防止対策について指導された。また、安全管理、保安施設は適切であったが、下記対策を追加し、更なる安全対策を実施された。工事現場内への不意な車両の侵入対策として、進入車両強制停止装置を設置する。1車線規制を予告する規制看板の上に視認性の高いサンライトを設置する。
74	道路	とび・土工・コンクリート	現場杭打等工事	現場打杭工	労働災害	墜落	曇り	2019年6月10時	北海道	クレーンで大型トレーラーに資材を積み込み搬出作業中、つり荷のフックを外すため架台に乗った際にバランスを崩し、地面に墜落した。	積み込みの作業手順がなく口頭で打合せ及び安全指示を行い危険告知も不足していたほか、積み荷が不安定な状態であることを見落とした。被災者に専任すべき作業指揮者と並掛り作業を業務させ至外し作業を行う前に積み荷の固定をしないでフックを外しに行ったほか、転落防止処置を行わず作業したこと。	スロープ架台の積み込み作業手順を作成し、作業前に作業従事者や作業内容の確認を行い、作業開始前には必ず危険予知を行い記録する。作業指揮者は積荷の状態の確認を行い、荷台に積荷が当たっていないか確認する。積荷を固定して安定し、車輪ロックを解除し、作業指揮者と並掛り作業を厳禁し、作業状況を記録する。積み込み前スロープ架台に単管とキャッチクランプで縦綱支柱と脚綱を取付たフックを外す時は安全帯を使用する。
79	道路	とび・土工・コンクリート	法面工事	法面工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2019年6月11時	北海道	ワンタッチ式バケット交換作業を1人で作業していた際、バケットが外れなかったためバケットを地上からある程度浮かせて、足でバケットを握ったところ、バケットが落下し足に接触した。	作業予定のない作業を単独で行い、作業手順を守らずバケットを浮かせた状態でバケットを取り外そうとした。被災した。	現場事務所において全作業員を対象に緊急安全訓練開催。労基署の指導票に対し改善報告書を出す。
80	農業農村整備	建築一式	建築一式工事	建築一式工(1)	労働災害	爆発、火災等	晴	2019年6月10時	北海道			
93	港湾	土木一式	海洋工事	海洋工	労働災害	墜落	晴	2019年7月13時	北海道	ケーソンい航に使用する回航索を連結する際、高さを合わせるため、金テコで調整していた時にバランスを崩し転落し、負傷した。	作業手順書に無い方法で作業をした。	ボルトの高さが揃わない場合は作業手順を示す。また、作業手順書に記載の無い作業や記載内容に不具合が生じた場合は一旦作業を中止し、作業方法を検討し、その結果を作業手順書に反映させる。必ず足場を原則に別ずって追加するとともに、必ず足場に三角管を設置し、その上を上蓋をしっかりと敷き、その上を踏まないようにする。また、それでも孔の高さにズレが生じる場合は、ジャッキにて高さを調整し孔の位置を調整する。
117	道路				もらい事故	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2019年7月15時	北海道			交通規制状況を認識できる施設として、簡易式休憩マッドを設置して注意喚起する。同施設でも規制状況が把握できない場合は想定し、車輪鎖付材を設置して、交通誘導員の安全確保を行う。後行員だけでなく停止位置の交通誘導員にも笛を持たせ注意喚起を行う。気のゆるみ、注意力散漫を防ぐため声かけを意識する。停止位置に近づいてもスピードを落とさない車が来た場合は、すくすくスペースを事前確認し準備しておく。
124	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	土砂崩壊	晴	2019年8月10時	北海道	消火配管作業のため、軟岩の地山を掘削・床掘りを行っていた際、法面の一部崩壊により作業員が被災した。	作業指示、KY活動等の安全管理については実施していたが、配管作業への採取り替えで掘りの作業員の意識が掘削法面から離れ、法面崩落の警戒を予測できなかった。また、長期間の施工により地山の一部が風化し、崩壊したと推察される。	掘削法面をこまめに警戒する。掘削法面を掘削する際は、軟岩を掘削箇所から離れた位置に再配置する。加えて地山点検員にチェック項目を追加する。掘削前に配管完了までの地山監視体制の確認と強化。掘削時の地山状況を考慮した、掘削法面の更、崩壊防止の土の使用拡大を行う。また、迅速な判断のもと、安全な作業実施を徹底する。
125	河川				労働災害	その他	晴	2019年6月10時	北海道	水生生物試料を採取しての調査中、被災者が調査道具を運搬する際に水際の斜面で転倒した。	移動の際は細心の注意を払っていたが、慣れから来る不注意により足下確認がおろそかになったことが原因と考える。	KYミーティングのほか、現地到着後、作業開始前に各作業現場に応じた安全対策の確認を班員全員で行うよう指導する。緊急安全大会を実施。事故発生の原因及び再発防止の対策を確認した。
129	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	墜落	晴	2019年8月10時	北海道			
136	海洋	土木一式	海洋工事	海洋工	労働災害	墜落	晴	2019年8月13時	北海道	胸壁内側に配置した積載型トラッククレーンを使用し、胸壁外側にコンクリートブロックを搬入する作業において、ユニック操作を行っていた被災者は、作業効率的に進めようとする合図者の合図無しで胸壁の上に登った結果、転倒したブロックと接触し胸壁上から転倒した。	合図者の指示に従わなかった。作業に余裕時間ができ、作業手順書外の作業が発生した。胸壁の上に登った。玉掛確認を行わなかった。	
137	道路	舗装	アスファルト舗装工事	アスファルト舗装工	第三者災害	その他	晴	2019年8月18時	北海道	道路舗装工事において、施工した舗装切断部の隙間が狭かった部分があったため、連休前日に隙間を砂で充填し現場を休工。その後、休工中に被災者が自転車で行った際、転倒し負傷した。	砂による閉詰りが雨により流失し、舗装切断部の隙間が露出した状態であった。休工中に日々点検を実施していたが、隙間が開いた状態に気がつくことができなかった。	舗装切断部の拡大が確認された場合は、速やかに舗装切断部の隙間を閉塞する。隙間には、砂詰めした後に加熱合材によるキャッピング又は加熱自地注入剤による充填を行う。点検項目に見落としが無いよう、チェックリストを作成し舗装切断部の点検を確実に行う。
150	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	第三者災害	倒壊	晴	2019年8月10時	北海道	現場で作業中、別の現場から応援要請があったため、トラック運転者は載型トラッククレーン収納未確認のまま後退した所、現場出入口を横断している架空線に載型トラッククレーンブーム先端が接触し、電線及び電柱を破損させた。	載型トラッククレーン作業後に、載型トラッククレーンアームの収納確認がおろそかであった。ライフライン事故防止対策として、注意喚起旗のみで、簡易的だった。合図者を荷下ろし作業には配置していたが、載型トラッククレーン車が現場退却時には確認していなかった。	移動式クレーン作業時には、現場退却までの一連作業終了まで、合図者を配置して作業時の合図のほか載型トラッククレーン設置等の収納確認を確実に行う。現場出入口に架空線高さを制限装置を設置する。架空線に三角旗を設置し、注意喚起をする。現場従事者全員に作業手順の再確認、再教育を安全訓練項目に基づいて行う。ライフライン事故防止について前例通り、現場従事者全員に周知徹底する。
152	建築	建築一式	建築一式工事	建築一式工(1)	第三者災害	爆発、火災等	晴	2019年8月9時	北海道	居住棟上とアトリウム棟外壁の取り合い部で、既存アルミ切の下部構成を確認する為、下地金物をサンダーで切断中、火の粉が断熱材と思われるウレタン材に引火し爆発が発生した。	アトリウム棟内側部にウレタン断熱材があることを把握していたが、火花の出が小さい手持ちサンダーでの切断は、当初は安全に施工できると考えていた。	既存鋼材等を撤去する際は、火気の出ない電動工具を使用する。可燃物の場所、火気厳禁の表示を行う。既存鋼材水切の撤去を取り止め、同水切の上にアルミ製水切を新設する。巡回、監視員を毎日配置する。
153	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	その他	雨	2019年8月14時	北海道	トンネル内の縦断点検中、駐車帯に止めてあった連絡車から徒歩で戻ろうとした所、歩道から足を踏み外し被災した。	トンネル内の歩道を徒歩で移動していたため、意識が通行車両に向き、足元の注意が疎かになった。	作業員の安全指導、安全教育を行い、トンネル内ではエンジン音や風圧により恐怖を感じることを周知し、足下以外に意識が向くような場合は立ち止まり、安全確認後に歩行を再開する。
188	河川	土木一式	ダム工事(高さ15m未満を除く)	重力式コンクリートダム工	労働災害	その他	晴	2019年9月14時	北海道	型枠をスライドするにあたり、被災者は合図者の指示に従い、シーボルトの撤去作業に当たったところ、スライド型枠が上昇し、シーボルトと鋼材の間に右手乗指を挟んだ。	合図者は、クレーンの巻き上げを止めるよう無線でクレーンオペレーターに合図をしたが、オペレーターに伝わっていなかった。	クレーンオペレーターは合図の復唱を徹底し、合図者は復唱されるまで合図を続け、吊り始めより荷重が大きくなったら必ず合図者は合図者に知らせる。また、予定する型枠を事前に十分安全対策の基、水平移動させ固定した後に本移動する型枠をスライドさせる。それでも解消できない場合は、事前に予定する型枠のメタルフォームを取り外し、木製バラ型枠を設置し、作業に先立ち木製バラ型枠部分を解体した後に本移動する型枠をスライドさせる。シーボルト撤去前に型枠が干渉していないか確認してから作業を開始する。
227	河川	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	その他	晴	2019年11月7時	北海道	作業箇所への徒歩による移動中、大型運搬ブロック上で足を滑らせ転倒し腰を打った。	安全通路を逸脱し、前日の雨で濡れて、滑りやすい法面ブロック上に乗ったことが原因と考えられる。	安全通路内の移動について周知徹底する。新規入場者教育時に安全教育を行う。
234	港湾	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	プレキャスト部材制作工事	労働災害	取扱運搬等	晴	2019年11月10時	北海道			足場組立作業手順の水平及び通りの確認を充分に行う。この際、通りなどに修正を必要とした場合は、一旦作業を止めて周囲の関係者と打ち合わせを行う。寒冷期は、朝のラジオ体操に加え、作業前のストレッチ等を取り入れ、十分に体を温くしからの安全な作業実施を徹底する。
248	砂防・地滑り	土木一式	砂防工事	砂防ダム工	労働災害	落盤等	晴	2019年11月11時	北海道	砂防堰堤床掘りの床仕上げ作業において、被災者が測定装置周辺の土砂をジョレンを用いて除去していたところ、上部法面から落石があり頭部に接触した。	掘削法面が南向きで、気温差により凍結融解し、砂質層が崩れ、埋もれていた石が抜け落ち被災者に当たった。気温の変化による落石を考慮せず、作業中の確認が不足していた。	掘削法面にネットとブルーシートを張り、万一落石があっても、ネットとブルーシートに沿って落下するようになる。法面の下向きの作業をする場合は、必ず監視員を配置し、ホイッスル携帯で作業する。床仕上げ時の岩盤清掃は高所作業車により、上段部より順に下段部に向かって行い、高所作業車作業時は、付近の立ち入りはコンとコーバーにより禁止する。
254	河川	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	飛来、落下	雪	2019年11月9時	北海道	矢板工山留設置作業準備のため、山留材に専用クランプを取り付けて、クレーンで吊った際、荷がバランスを崩して金具が外れ、山留材が落下して転がり、被災者の右足と接触した。	本作業前の段取り作業のため、安易な作業方法となっていた。	作業前に作業員間で作業手順の再確認を行うことや、作業時の指差し、声かけ確認等の措置を行うこととした。
256	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	第三者災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2019年11月13時	北海道	水路の管理施設整備区間において、土工仕上げ作業を行うため、バックホウにより準備をしていたところ、アームの上部が架空線と接触し切断した。	重機使用に際し架空線がある事は認識していたものの、合図者不在のままオペレーターの判断で行い、また普段使用しているバックホウよりアームが長かったこともあり、架空線と接触し切断した。	作業手順のとおり、のぼり旗、三角旗を設置し、視認性を高め、巡回点検でも確認する。架空線が作業範囲内にある場合は、監視強化のため、架空線との距離を確認し、すり足の上に監視員を配置して作業を行う。ライフラインの近接工事を含め現場作業時における安全意識を持たせるための指導、教育を行う。架空線下で機械足場を整備する際には、配置された合図者、監視員の指示のもと、小型のバックホウで作業する。
258	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	第三者災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2019年11月10時	北海道	資材仮置場にあるブロックを積込むため、待機場所からバックホウのアームを上げて移動したところ、架空線を切った。	当該架空線において安全対策等がとれておらず、架空線下横断時に誘導員の配置がなされていなかったため、オペレーターが架空線を見落としたこと。	全架空線横断箇所直前に門型ゲートを設置し、のぼり旗等を設置する。重機の旋回・アーム操作等の作業禁止区域を設定し、作業計画の打ち合わせで周知。誘導員不在時の重機移動禁止、重機の運転席内に注意喚起文章等を貼り付け、注意喚起を行う。バックホウのフックに吊り金具を付けた状態で走行を禁止する。
265	河川	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	その他	雪	2019年12月9時	北海道	荷物の積み下ろし作業中、ダンブトラックの踏み掛けで足を滑らせ地面に転落し負傷した。	踏み掛け部の凍結。	車両の踏み掛け部に雪水が付着している場合は、それを取り除いてから昇降する。それが困難な場合は、脚立を使用して昇降する。
269	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	第三者災害	その他	曇り	2019年12月15時	北海道	水路の付帯施設工堰断排水トラフの設置に向け、バックホウにて掘削作業中、地表に出ていない送水管の空気弁にバックホウが接触し破損した。	送水管管理設置位置はトラフ設置位置から離れていることから、施工に支障がないと判断したが、実際は、縦断排水トラフのほぼ真下に設置されており、地表に出ていない送水管に接触し破損した。	送水管の掘削にあたっては水道管理者の保有する水道管理図を入手し空気弁、及び仕切弁の有無を確認したうえで試掘位置を決定し、本掘削を行う。
276	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2019年12月9時	北海道	橋梁部のペント組立作業をしていた被災者が、倒れたペント材と仮置きしていたペント材の間に頭部を挟み負傷した。	不測の要因でペントのバランスが崩れ、転倒の原因となったものと推測する。	ペント移動時の転倒防止のために、横に単管パイプではなく正確な積載を設置する。ペントと横レールの設置面を増やすためにサンドル材を増やす。サンドル材に雪がこままにレール部分についてジェットヒータを設置して融雪発生する。進行方向側にはペントの上端部から控えをとり、逆側へは転倒防止装置を設置し転倒を防止する。チルトタンクについては止め止めストッパーを設置しレールとボルトで固定する。チルトタンクの動きを増やして、チルトタンクの架け替え作業を減らす工夫をする。突風等による気象条件の変化による、ペント転倒防止のため風速計を設置する。
281	空港	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	外郭施設	労働災害	その他	晴	2019年12月13時	北海道	橋脚基礎を法面下に移動させようとした所、基礎ブロックの方向途中で変えてしまったため、法面を転がり被災者の手首が巻き込まれ負傷した。	被災者は重機運転まで、掘削も一時終了し、他の作業員が交代している間は暇なため、少しでも作業を進めようとした。その結果、クレーン作業でブロックを両降ろす計画であったにもかかわらず、人力で引きずり落したため、被災する事になった。	緊急安全大会を開催し、作業員への安全指導、安全教育を行い、作業計画の遵守について再周知し、作業員全員が理解しからの作業を行い、不安全行動を行わないなど再発防止対策について指導徹底する。
291	河川	土木一式	樋門・樋管工事	樋門・樋管工	労働災害	墜落	曇り	2019年12月13時	北海道	樋門工事の雪害面への種組み足場の設置において、手摺り設置作業を行っていたところ、木製足場が折れ、地面に転落し被災した。	作業中に木製足場に片足をのせ作業しさらに安全帯を着用していたが使用していなかったため転落した。	緊急の安全訓練を実施し、不備のある材料を使用しないことや安全帯を確実に使用することを指導徹底した。

工事分野	工事の種類	工種	工法・形式名	災害分類	事故分類	天候	事故発生年・月・時間	事故発生場所(都道府県)	事故に至る経緯と事故の状況	事故の要因(背景も含む)	事故発生後の対策	
285	海岸	土木一式	海岸構造物工事	海岸構造物工	労働災害	墜落	晴	2020年10月5時	北海道	作業船による捨石投入作業において、被災者が作業船の外階段を降下しようとした際、足がもつれて上段から下段へ滑り落ち負傷した。	階段に注意喚起の確認表示バーを設置して注意を促す。足もと注意のペイントを再塗装し、見やすくする。階段に滑り止めのテープを貼る。	
299	通信	電気通信	通信工事	通信工	労働災害	墜落	曇り	2020年1月15時	北海道	道路情報板撤去に先立つ現地調査において、高所作業車作業員が情報板に上り安全ブロックを設置した際に、キーロックから安全ブロックが抜け転落した。	昇降開始時、墜落防止器と、墜落制止器具との接続状況確認不足。	高所への昇降開始時は丸腰監視員等により、墜落制止器具の装着状況及び墜落制止器具との接続状況を確認する。作業手順に上記の別人チェックを追加する。高所作業車への再教育及び墜落防止器、墜落制止器具、梯子使用時の注意点の再教育を実施する。
303	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	もらい事故	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2020年1月13時	北海道	道路にて路側規制による舗装欠損部補修作業を行っている際、一般車面が保安施設内に進入し路側に停車していた作業車に追突しその後、作業員と接触した。	進入してきた一般車面はフロントガラスが汚れていたため、前方の確認がしづらな状況で運転していた。	保安施設の設置に係る作業、交通誘導員との連携について、再確認する。
311	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	クレーン等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2020年1月13時	北海道	排水路水路水側の中間側設置作業において、農道上の敷板を吊り上げ撤去し、右戻回後に吊り下ろし集積作業をしていた所、被災者がバックホウの右側面に移動し、動いたキャタビラと被災者が接触し負傷した。	バックホウオペレーターが合図誘導指示がないのに機械を独断で動かした。被災者が死傷に立ち入り、さらに重機進行方向正面に居た。	作業途中に持ち場を離れないための再教育を行う。カラーコーンとコンバーにより作業区分を明確にして立ち入らないようにする。合図者不在の時は機械作業を中止するよう徹底する。
319	河川	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	その他	曇	2020年1月15時	北海道	作業現場より現場事務所敷地内の倉庫へ資材を取り戻った際に、転倒し負傷。	災害発生時は夕方近くでもあり足元が凍結できていたのが要因であると考えます。	転倒災害について、安全訓練を実施した。
331	港湾	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	係留施設	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2020年1月14時	北海道	岸壁屋根施設の外壁に板を貼り付ける作業において、高所作業車を使用して屋根内部側から取付金具にてト板を挿付し完了後、屋根外部側に旋回する際に、高所作業車の操作を誤り、高所作業車のバケットと屋根の間に挟まれた。	被災者は次の作業工程に意図を集中させてしまい、作業車の操作を確認することなく慣れにより、誤操作をしてしまった。また、被災者が今回の作業車両に必要な資格を有していなかった。	高所作業車の操作側の誤操作が無いよう操作方法を判りやすくレバー手元に大文字で色分けした文字盤を表示する。資格の確認と照合して、有資格者による高所作業車の運転操作の徹底を図る。朝礼時に高所作業車運転技能講習及び特別教育修了証の携帯の確認を実施する。上記防止対策の徹底を作業指示書・計画書・RKY書に明確に記述する。
332	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2020年2月10時	北海道	土のうをバックホウで撤去作業中、吊上げた土のうが凍結により周辺と固着していたため、吊り紐が切れ、その反動で振れたバックホウの吊具が合図者に接触し負傷してしまった。	凍結により撤去する土のうが周辺と固着していた。合図者が一定距離への退避及び地切り後の確認が不十分であった。	吊り上げ時には玉掛け後の待避距離を明確に定め、待避が完了するまで吊り上げ作業は行わないよう徹底する。地切り後一旦停止し、玉掛け用ワイヤーロープの張り及び吊り荷の安定等を確認。併せて凍結・固結等による負荷の有無を確認する。施工当日の天候や気温に注意し、吊り上げ対象物が凍結・固着していないかを油圧シミュ等により事前に確認する。
357	河川	土木一式	トンネル工事	密閉型シールドトンネル	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2020年2月15時	北海道	トンネル坑内ポイントにおいて、停止中のセグメント台車に装備されている充電式前照灯のバッテリーを切羽側に背を向けて取り外している際に、ポイントが切替わっていない状態で切羽側から進入してきた他のバッテリーロコに衝突された。	切羽側から進入してきた他のバッテリーロコの運転手が、軌道のポイントを切り替えることを念頭にしていた。運転手が進行方向を表示しているバトライトと信号機を確認せずに、もう一台のバッテリーロコを動かしてしまっ。運転手が動いているバッテリーロコのポイント通過時進行方向を自視していなかった。バッテリーロコの進行方向の互いができていなかった。	作業手順の見直しや設備の改善を行うとともに、緊急の安全大合により改めて安全教育を実施した。
365	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	墜落	晴	2020年2月6時	北海道	地形測量中に作業員が転石を目視確認するため、傾斜地に移動した際にバランスを崩し転落した。	現地測量勾配から法的な義務がないため、親綱や安全帯などの墜落制止器具を設置せずに転石確認作業を実施していた。	作業計画書において立入り禁止区域を明示し、安全活動において転落の危険性に対するリスク管理を行う。急傾斜地内に立入る必要がある場合は、作業計画書を見直し、親綱や安全帯など墜落制止器具を使用して作業を実施する。
494	道路				労働災害	墜落	晴	2020年7月15時	北海道	地盤改良工事に使用するプラントを運転中、アジテーターの吐出口にセメントカスが詰まった為、吐出口を開放し除去している際に、頭って手を入れ、攪拌翼に挟まれ、負傷しました。	セメントプラントは停止ボタンを押し停止したが、発電機により回転音が聞こえず、モルタル固結防止の為のアジテーターの攪拌翼が回転していることがわからなかった。	工事現場内において安全大合を実施事故の再発防止策を北見労働基準監督署に提出
514	河川	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	その他	曇り	2020年6月19時	北海道	地盤改良工事に使用するプラントを運転中、アジテーターの吐出口にセメントカスが詰まった為、吐出口を開放し除去している際に、頭って手を入れ、攪拌翼に挟まれ、負傷しました。	セメントプラントは停止ボタンを押し停止したが、発電機により回転音が聞こえず、モルタル固結防止の為のアジテーターの攪拌翼が回転していることがわからなかった。	工事現場内において安全大合を実施事故の再発防止策を北見労働基準監督署に提出
541	港湾	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	その他	晴	2020年8月10時	北海道	海上ボリング機連中、マシンのスピンドルのチャックを緩めストローク下端から上昇させようとしたが機体によりボリング機が共に上昇したため、運転員の指示により作業員がバイブレンチをロッドに引掛け固定している間にスピンドルが滑動した。運転員がバイブレンチを取り外すよう作業員に指示したが、正確に伝わらないまま動力クラッチをつないだためロッドが回転し、再上で保持していたバイブレンチが作業員の右顔面に激突した。	作業員間で具体的なかつ確実な合図方法を定めていなかった。チャックを緩めた状態でスピンドルとロッドが滑動しない場合の作業手順を作成していなかった。	ボリングマシン運転時は合図確認を徹底するための運転員、作業員は指差呼称を行い、お互いの合図を目視確認した後、次の作業に移行する。今回の事象とそのリスクを具体化した作業手順書を作成し、作業員に周知する。
550	道路	舗装	アスファルト舗装工事	アスファルト舗装工	労働災害	取扱運搬等	晴	2020年9月10時	北海道	片側交互通行規制で施工を行っている最中、工事起動側に設置している規制車両の上に搭載された電光掲示板が勾配下の荷台後方側に移動し落下転倒し、起動側で一般車面を誘導していた交通誘導員に接触した。	規制作業時に安全資材を規制車両前から荷降ろしした際、後部アオリを閉めるのを怠り左右のアオリが傾み、電光掲示板を固定していた荷締めベルトが緩ん電光掲示板が動き落下転倒した。電光掲示板のタイヤストッパーのロックが外れていた。荷締めベルトの固定が不十分だった。規制車両と交通誘導員乗員の立ち位置が近すぎた。	規制車両後部のおおりを開けないようにするが、開けた場合は必ず点検確認を行う。荷締めベルトを左右一本で固定せず、複数本で固定する。電光掲示板のタイヤストッパーは必ずロックし、規制車両設置後は必ず点検確認を行う。交通誘導員の立ち位置は一般車両進入時を逃められらるよう規制車両との間に十分に距離をとる。緊急時の監督員への第一報は間を置かず、たとえ打ち合わせの最中であっても言付けをして確実に伝えるようにする。
555	港湾	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	外郭施設	労働災害	飛来、落下	晴	2020年9月11時	北海道	岸壁に係留中の起重機船上で、玉掛者が介鎖ロープを手放したとき、吊りロープが切断しポンプが被災者側に大きく振れ被災者の頭部を押し、その弾みでバランスを崩し方塊ブロック上から落下し、背中と後頭部を船甲板にぶつ被災した。	作業の遅れを取り戻そうと口頭連絡で起重機船の作業計画を急遽変更し、作業計画書の内容を見直さず作業を行った。作業内容の変更に対する周知と安全教育が不徹底だった。注排水用ポンプを吊る玉掛け作業員は作業計画書と異なるベルトスリングを使用し、購入時期や使用履歴が不明で点検記録もなく管理が不十分で安全性に劣っていた。	作業手順に変更が生じた場合は、綿密に打合せ施工計画書等を作成し、全作業員への作業内容の周知と安全教育を実施する。吊荷作業時は合図者及び玉掛者の作業位置が吊り荷からの安全が確保されているか確認する。作業計画書で定めた玉掛け用具を使用する。玉掛け用具の変更時は変更作業計画書を作成し、クレーン作業に関わる全作業員に周知する。ベルトスリング使用時は、法に則った点検記録簿を作成し、その点検項目をもとに始業前点検を元で行い、点検記録簿を確実に保管する。新巻ベルトスリング購入時は、購入履歴を記録し、船現場における使用履歴等の管理を徹底する。使用期限内のものは、点検基準に従い変化が認められたものを廃棄する。
559	農業農村整備	土木一式	水路・管路工事	ボックスカルバート管路工	労働災害	倒壊	晴	2020年9月14時	北海道	既設短管撤去を工事用道路上でクレーン機能付きバックホウにて吊りながらボルトを全て外したが、抜けきれなかった既設管が外れて倒れたため、既設管と地間に右足が挟まれ被災した。	既設短管撤去が継続する予定外の作業により、改良土運搬車両を通行させるために管撤去作業を一時中断した際、本来ならボルトの仮締め等を行い、抜け落ち防止措置を施してから退避することになるが、抜け落ちる事への通信から、安全対策が不足、作業計画書に記載されている既設短管撤去作業区域への立入禁止位置のバリケードが設置されておらず必要な安全対策を行っていない、かつ、不測の事態時の退避場所の指示を行っていなかった。	予定外の作業となり途中で作業を中断する場合は、管接合部が堅く抜けにくい状態であっても不安定な挙動を予測し、再度ボルトにより仮止めし、その後、吊りワイヤーは外す。作業計画を適宜に安全対策を実施する。退避場所の周知を徹底する。カラーコーンに加えバーで立入禁止措置としてバリケードを設置する。設置位置を具体的にクレーン作業計画に記載する。作業の一時中断時は、作業関係者全員で次の作業及び退避等の徹底・周知を図る。また、退避者の退避確認を職員及び職長が行う。
580	港湾	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	外郭施設	労働災害	飛来、落下	晴	2020年9月13時	北海道	移動式クレーンで仮設用の階段を吊り下げ、固定したH型鋼上に設置する際、所定の位置からずれ動いた階段を止めさせようとした作業員の右手母指がH型鋼と階段下部の間に挟まれた。	初めての作業であるのに慎重さに欠けていた。クレーンで未設置状態の階段に作業員がとっさに手を出してしまった。床版用階段に比べ重量が軽く安易な作業として考えていた。	本作業にあたり類似する作業手順書を準用していたが、より具体的なリスク対応を別記して作業員に周知した。階段設置時の施工性、安全性を向上させるため、階段下部部にすれ止め鋼材を溶接し、レバーブロック位置合わせするよう作業方法を変更した。
592	道路				もらい事故	その他	晴	2020年10月14時	北海道	横断測量の作業中、路外で測量器械を操作していた作業員が、走行してきた乗用車にはねられた。	昼寝し運転	作業員を増やし、車面が接近した時にトランシーバで測量作業中の作業員に連絡して注意喚起を行うことにより交通事故防止対策を実施。
601	その他	建築一式	建築一式工事	建築一式工(1)	労働災害	工具等取り扱い	晴	2020年10月10時	北海道	是正作業を行う為、結束線の切断用途に使用するクリッパーで結束線を切断した際にその破片が当たった。	送り出し教育にて柱筋・壁筋の配筋結束時は保護メガネ、シールドを使用するように教育していたが、被災現場の現場で実践されなかった。新規入場者教育書類は全て日本語表記であった為、安全誓約について理解ができていなかった。	新規入場者教育受講後に保護メガネが何らかの理由に伝わらないイラストを追加するとともに、重要な部分は外国人労働者にもわかるように一部図形で記載する。日々の安全確認時には、保護用具の着用はかかに保護メガネ、シールドの着用についても確認等を行う。
602	道路	土木一式	トンネル工事	NATM、矢板トンネル、TBM	労働災害	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2020年10月14時	北海道	坑外に駐車させていたダンプトラックがバックでトンネル坑内に入るところ、終点坑口付近で歩行していた被災者に気づかず接触した。	坑外に駐車させていたダンプトラックがバックでトンネル坑内に入るところ、終点坑口付近で歩行していた被災者に気づかず接触した。	いかなる場合においてもダンプによるずり出し作業中は坑内立入禁止であることを明確化。ダンプによるずり出し作業時にいざ事故等の異常時に入坑する場合は職員に報告し、ずり出し作業を停止させる。設備不具合合解時の確認手順を定める。作業中は監視員を配置し、坑内への立ち入りを阻止する。作業中は坑口部「ずり出し中立入禁止」の標識を設置し、坑内への立ち入り禁止を注意喚起する。
615	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	墜落	晴	2020年10月11時	北海道	桁下に設置された添架管・梁台に安全帯を掛け、後ろに振り返って単管の上立ち、前屈みで前方の単管を外す作業中、添架管・梁台が被災者に落下した。	バックホウにて吊り上げたブロックを敷設後、合図者の合図によりバックホウが旋回したが、吊り金具が回転した。	緊急安全ミーティングを開催して作業員と事故の原因を共有し、再発防止のため安全帯の設置箇所の再確認や日常的に声かけを行うことを確認した。
628	河川	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	その他	曇り	2020年11月16時	北海道	護岸ブロックの敷設作業中に、バックホウで吊り上げたブロックを敷設後、吊り上げた吊り金具が側に居た被害者に当り負傷した。	バックホウにて吊り上げたブロックを敷設後、合図者の合図によりバックホウが旋回したが、吊り金具が回転した。	工事現場において安全衛生研修会を実施した。
636	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	その他	曇り	2020年11月9時	北海道	語材を運ぶやに落下させると作業員が反対側に移動した際、しほかけた白袋の底部に別の穴を開けかけた吊り紐が破断し、作業員の方向に倒れかけた白袋と鋼製枠の間に作業員が挟まり、さらに濡れ出した語材が身体にかりかり転倒した。	土のうは移動式クレーンで吊り上げ、地切り後に吊り紐の状態を確認し鋼製枠にまで吊り上げることとしていたが、直前まで破断した吊り紐はなかったことから作業手順を変更せず継続した。作業手順書、危険予知活動で合図者の見える場所で行ったこと、「吊り荷の下に手を入れない」を指示していたが、作業員は遵守せず作業した。	合図者は、クレーンオペレータ及び作業員双方を目視確認できる位置に配置し、不安全な行動を確認した場合はホイッスルを吹鳴し、その場で作業を停止するようオペレータ及び作業員に周知、教育する。一般型土のうの地面に置いたまま側面に穴を開けて語材を出し、詰め替える。
637	道路	舗装	アスファルト舗装工事	アスファルト舗装工	第三者災害	その他	曇り	2020年11月11時	北海道	交差点右折レーン幅縮のため、車道路路肩の舗装をカッターで切削した翌日、発注業者のとも舗装を撤去したところ、舗装直下に敷設された鋼管路全て切断した。	作業前に前後ハンドホール内を確認し、参考図面どおりの位置でケーブル管路が接続されていることを確認したが、中間地点で管路の埋設深さが変化していると考えられず発注者からの情報もなかった。これまで多くの舗装切削作業を行ってきたが、舗装直下に埋設物を確認した施工事例はなかった。舗装切削は作業手順どおり行い、舗装カッターの操作も異常はなかった。	舗装切削ライン下に埋設物が存在する場合、次の項目を作業手順書に定める。試掘困難な場所で埋設物直近の舗装を切削する場合は、事前に地中探査機で埋設位置を把握する。埋設物が浅い位置にある場合は舗装カッターを使用せず、人力で舗装を取り除き撤去する。
650	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	その他	曇り	2020年11月22時	北海道	凍結防止工、凍結防止剤の散布作業を行っていた被災者は、散布車のホッパーに設置している蓋を閉めて助手席に居る際、墜落した。	本人が荷台から降りる際につっかりとした3点支持の昇降体勢をとって降りなかったためバランスを崩した。	凍結防止剤散布車の昇降時には3点支持の昇降体勢を徹底するとともに、荷台作業時には作業担当者や状況確認担当者で行う。また、手摺りの滑り止め措置として、テープ等による滑り止め養生、水気がある場合のウエス等による拭き取り、乾いた手袋への履き替えの対策を行う。
668	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2020年12月11時	北海道	除雪作業が終了し敷板集積箇所へ移動する途中で手がつかずんだ為、立入禁止措置を乗り越えバックホウのマフラーに近付き手を止めようとしたところ、マフラーの角度調整のため後退し、右側キャタビラと接触し負傷した。	防寒手袋を着用していなかった。重機の排気口で手を温めたいとは思っていなかった。	重機等に接触の恐れがある場所への立入禁止を徹底すること。重機誘導者の誘導位置はオペレーターから全体を見通せる場所とする。重機オペレーターは作業半径内の誘導者がオペレーターを見えないときは重機を動かさないこと。後退するときは合図すること。各作業者は、作業基機内に立ち入る場合は、ホイッスル等で合図を行い、安全を確認し、立ち入ること。
672	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	墜落	晴	2020年12月9時	北海道	測量の準備中に小高い地面から道路に降りようとして、車に足を滑らせ負傷。	足下が滑りやすいので注意はしていたが、被災者本人の注意不十分で事故になった。	作業前に朝礼ミーティングを行い、作業内容の確認、作業手順の確認、人員の配置を周知徹底し、安全意識の向上を図る。現場内は滑りやすいので足下に十分注意し、焦らず慎重に行動するよう指導する。
687	河川	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	その他	曇り	2020年12月10時	北海道	トラフ布設作業を行っていた際、吊りクランプが滑り外れトラフが落下した。布設済みトラフの横にいた被災者が挟まれた。	吊りクランプの使用前点検は実施されていたが点検表項目が十分なものではなかった。カム式のカムギアのチェック項目が無く十分な強度ではなかった。又作業員の配置についてもトラフが落下しても怪我の少ない位置での配置ではなく接近していたことが原因です。	緊急安全訓練を実施
688	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2020年12月16時	北海道	作業車への資材積み込みを終えた後で、車両後部のパワーゲートの油圧固定がされていないことに気づいた作業員が油圧機構への切替作業を始めたところ、被災者もそれを手伝おうと、パワーゲートの手動レバーを操作したところにより、パワーゲートが後方に倒れ、被災者接触した。	交通誘導員が職務以外の作業を独断で行った。油圧の機構を誤って手動で格納したため固定されておらず、格納作業をやり直さなければならぬ状況であった。	交通誘導員の職務、禁止事項について再教育を行うとともに、パワーゲートの操作方法についても再教育し、パワーゲート格納時に油圧、手動の機構判別が容易となるよう、ゲート横断面に表示を行う。また、パワーゲートの操作時には交遊監視員のもと作業することとする。
693	道路	土木一式	トンネル工事	NATM、矢板トンネル、TBM	労働災害	飛来、落下	曇り	2020年12月8時	北海道	トンネル切羽面においてパールによりその部分の除去を試み、一部の岩塊が落下し負傷した。	被災者は作業手順書に記載のないパールでの岩石除去を独自の判断で実施した。被災者は担当の左側支援員建て込み後完了後、切羽面への注視を怠った。	切羽元トンネル作業員が支援工建込み以外の用途でパールを使用しないよう、職員が作業に必要な時のみパールを引き渡し、作業を監視・指導する。使用後はパールを職員に引き渡す。切羽元のトンネル作業員が作業手順書にない行動をとらないう。又、切羽面への注視を怠らないう指導する。こそ完了後、パールカーにて掘削面を全周し浮き石の有無について再度確認をする。切羽状態の視認性向上のため切羽照明を増設する。
695	河川	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	曇	2020年12月15時	北海道	築堤の除雪作業をバックホウで監視者無しで行い、バック走行をした所に築堤崩れよりキャタビラが外れ、重機本体が横にずれ、築堤法面途中で滑り落ちた後、横転し高水敷に仰向け状態で停止した。	幅の狭い箇所での作業なのに、幅の見出し杭の設置が遅れた事。重機単独行動をさせた事。	重機運搬者への安全確認を徹底する。転倒防止するために施工前に路肩に見出し杭を設置する。転倒のおそれのある場所での施工には誘導者を配置し施工する。
700	河川	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	墜落	曇り	2020年12月8時	北海道	除雪終了後、積ブロック基礎の高さ不具合調整のコンクリートの削付作業を行っていたところ、法面上にある電工ドラムのブレーカーが落ちたため、ブレーカーを直したあと作業箇所へ戻る途中に養生シーの上で足を滑らせ墜落した。	電工ドラムが法面の高所に配置されていた。通路の除雪の不備。	電工ドラムの位置を移動し、法面部への立ち入りを禁止するとともに、養生シートの使用を最低限とした。
710	港湾	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	外郭施設	第三者災害	爆発、火災等	曇り	2021年1月13時	北海道	工事現場に隣接する施設敷地内に設置した作業員休憩所において、ストーブに灯油ボリタンクからポンプで給油した。この時ストーブが燃焼中だったため、給油開始直後にストーブが燃え上がり物置に燃え移り延焼した。消防車で消火活動を行い積火した。給油した本人にやけど、けがによる被災はないが、作業員休憩所と物置の2棟全壊、隣接する施設所有通風機器とスピーカーを損傷した。	作業員は、安全な給油方法の理解が足りなく、火を完全に消さないで給油した。	暖房器具について不適切な取り扱いをしないよう、使用者へ安全な使用方法を周知徹底する。
712	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	取扱運搬等	晴	2021年1月10時	北海道	クレーンで消凍ブロックを海上から撤去し陸上一時仮置きする作業で、クレーンが完全に停止する前に玉掛けワイヤーロープと消凍ブロックの間に挟まれた。	被災者が玉外し作業において合図者へ作業着手前の開始確認を怠ったこと及びクレーン動作が停止となっていた状況で作業を行った。	クレーン運転手はクレーンが完全に停止した事を警告及び手合図する。玉外し作業においては合図者はクレーン運転手の手合図を確認し玉外し者へ玉外し作業を行わせ、作業が終了し退避が確認されたら巻き上げ合図を行う。

工事分野	工事の種類	工種	工法・形式名	災害分類	事故分類	天候	事故発生年・月・時間	事故発生場所(都道府県)	事故に至る経緯と事故の状況	事故の要因(背景も含む)	事故発生後の対策
753	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	飛来、落下	晴	2021年2月9時	土砂防護柵基礎設置においてダウンホールハンマーの施工中、圧縮空気取り入れエアシベルが外れ落下し、掘削土を排土していた作業員に接触した。	元請等は危機管理体制でこの事故の危険予知の不履行や見逃しがあった。通常はベアリングにより本体からエアシベルに回転が伝わらずネジ部が外れないが、一時的に回転が生じ外れた。	エアシベルとドライブヘッドの接続部にアイマーキングを設置し、目視確認ができるようにする。始業前点検リストにエアシベルとドライブヘッドの接続部アイマーキングの有無に係る確認項目を追加する。内部ベアリングのグリス補充頻度を、作業毎に変更する。剛終了の都度、設置したアイマーキングの確認を行い、緩み等が発見された場合は、直ちに作業を中断し、メーカーに持ち込み点検・修理を行う。その際、現場施工は点検済みのドライブヘッドに交換し、作業を再開する。
755	建築	建築一式	建築一式工事	建築一式工(1)	労働災害	その他	曇り	2021年2月8時	材料加工の為片手に道具を持ち、通行中に凍結地盤に足を滑らせ転倒した。	作業現場の路面が凍結している所には毎朝融雪剤を散布していたが、朝の為に十分解氷されていなかった。又事故現場路面に勾配が付いていた。	現場内の凍結箇所毎朝融雪剤と砂の散布を行う。また、現場巡回時に凍結箇所の確認、作業中に凍結箇所があれば現場代理人に報告するように指導し、速やかに融雪剤及び砂の散布を行う。転倒しやすい箇所、投棄などには注意喚起を増強するとともに現場内の整理整頓を徹底するように指導する。寒い場所には照明を設置するとともに足元が見えにくいような荷の持ち方をしないよう、また小さな歩幅で急がず歩るように指導する。
766	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	第三者災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2021年3月10時	除雪工事において、除雪グレーダーで水切り作業中、除雪装置が信号柱に接触し、信号柱の折損及び信号機を損傷した。負傷者はいない。	交差点左折時において、グレーダーのオペレータが曲がれないと判断し、位置調整のため少し後進した時にプレートが信号柱に接触しており、オペレータ及び助手両者の目視によるプレートの安全確認が不十分な状態で後進したことによるものである。	除雪グレーダーでの除雪作業時オペレータ及び助手は、前後進時・プレート位置等互いに指差し呼称し目視で安全を確認する。また、目視で確認出来ない場合は、助手が降車し確認を行う。作業前の除雪作業計画書による打合せ時に、除雪区間・方法や作業時の注意事項に加え、除雪グレーダーの注意事項について毎回打合せを実施する。
820	港湾	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	外郭施設	労働災害	取扱運搬等	晴	2021年4月16時	起重機船上で玉掛け作業時においてワイヤーをフックに掛けた後、巻き上げを開始したところ、被災者がワイヤーロープが張るのと同時に巻き込まれ負傷した。	作業手順書・計画書による周知、当日の危険予知活動による「手元確認」等の留意事項を共有して安全対策を進めていたが、被災者は玉掛けワイヤーの位置を保持すべく手を添えた状態のまま会合に応答し、巻き上げ作業が行われたことが要因である。一方、吊荷が大型であったため、被災者の行動を合図者が目視確認できないまま巻き上げが開始されており吊荷形状に応じた作業配置等についての配慮が不足していた。	作業手順書にフック位置確認作業を加え、玉掛けワイヤーを掛け後は全員退避してからワイヤーを張る。玉掛け作業から退避作業への転換は電子ホイッスルを使用して明確に合図者から合図を行う。退避位置は吊り委員からワイヤーが外れてもつづかない位置まで離れる。避難した玉掛け者の人数確認を行ったらワイヤーを張りフックの位置を定める。
832	その他	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2021年5月9時	ジブクレーンのフレーム解体時に解体した部材の下敷きになり負傷した。	被災者は打合せとは違う箇所で行っていたが、合図者やユニーク操作者は注意する事もなくそのまま作業を進めてしまった。玉掛け作業で吊り箇所を本来かける箇所と違う箇所で行ってしまった。被災者は、吊り荷の下に入ってしまったため固定ピンをはずした時にフレームが折れ、間に挟まり被災した。	緊急安全大会を開催。
847	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	工具等取り扱い	晴	2021年5月11時	トラフをエンジンカッターで切断する作業を開始。トラフ部材内に配置されている配力筋に研削ブレードの上部が接触し、キックバックが発生した際、研削ブレード手元側延長線上の被災者が、跳ね上がった機械を避けることができず、研削ブレードガードに顔面を殴打し負傷した。	エンジンカッター作業において、作業手順書、工具取扱説明書に基づき、研削ブレードの手元側延長線上に立たないこと、研削ブレード上部を研削機を本来かける箇所と違う箇所で行ってしまったことにより、事故が発生した。	切断作業時の姿勢として、研削ブレードの手元側延長線上に立たない。切断作業時におけるキックバックゾーンでの切断禁止。作業手順書に追記し、改めて作業員に周知を行った。
854	河川	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	その他	晴	2021年5月9時	堤内排水路法面部を肩掛け式仮払機で除草中に法面平場の不陸に足を取られ転倒し、負傷した。	地形が変化する堤内排水路法面を通行した為と思われ、足場の確保が不十分だった。	発注者・受注者で現地事故調査会を実施し、事故現場の状況を確認し、事故原因の技術的分析、再発防止対策を実施した。
868	港湾	土木一式	港湾・空港・海洋埋立工事	外郭施設	労働災害	飛来、落下	晴	2021年6月11時	防波堤を延伸するため、ケーソンの据付作業を行っていた。被災者は既設ケーソンのウインチ作業をしていたところ、外港側の引き込みワイヤーが破断し跳ね返りによって、飛んできたワイヤーが接触し負傷した。	ケーソン据付作業にあたり、作業手順書「危険予知活動」施工計画書等の留意事項を共有して安全対策を図っていた。被災者は港外側の引き込みワイヤーのウインチ操作を担当していたが、想定外のケーソン動揺により、港外側の引き込みワイヤーロープに荷重が作用して破断したことが要因で、跳ね返りにより被災者に接触したのと考えられる。また、作業員を防護するための安全対策の配慮が不足していた。	ケーソンの動揺等で、ワイヤーロープが緊張し大きな引張力が作用した場合は、ロープの緊張を緩和するための、ブレーキは使用せず、ウインチの送り出し操作を行う作業手順書に明記し、作業員に作業手順書を周知徹底させる。
887	河川	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	その他	晴	2021年6月9時	堤防・河岸の草刈り後、平面部及び法面部で乾燥させた草を熊手をを使い集める作業において、ブロック天端から足を滑らせ仰向け状態で滑落した。その際、背中を護岸に打ちつけ、負傷した。	事故当時、ブロックの天端を確認できる状況で平坦部も確保されていたが、草の集積部分の一部で確認しにくい部分があった事が想定される。	安全大会を実施した。
894	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	工具等取り扱い	曇り	2021年7月6時	高密度ポリエチレン管布設作業中、被災者が管内に入った際に管が入り込み管の端部があたり、腕と管に挟まれた。	管が腕の小口にあたり入りこみかけたため合図者が管内の内部に入って管を誘導しようとした。	機械布設の際は管内に入らない。管の方向調整は管の下流または川の管側で行う。合図者は作業を行わず合図のみを行う。排水管を機械布設の際は、下部側のみの設置と中間部に管布設後に設置したオペレーターから死角とならないようにする。中間部は、管布設後に設置する。死角が解消できない場合には、オペレーターと合図者は無線機を用いて作業を行う。オペレーターが合図者を確認できないときはたまたまに作業を中止する。教育の徹底による作業者の危険意識の向上、作業所内のコミュニケーション活性化により相互に作業の監視と指導をおこなえる環境を作る。
909	河川	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2021年7月13時	除草作業中の作業員の付近を通過する際は、声掛け等の合図をして、作業中の作業者の確認を取り、作業中の刈払機が止まってから、通過することになっていたが、確認が取れぬまま、通過したため、除草作業中の作業員が気づかず事故に至った。	被害者は自分に気が付いているであろうという思い込みと、加害者は作業に集中しすぎて、視界が狭くなってしまっていたことと思われる。	事故の翌日に緊急の安全大会を行った。
946	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	工具等取り扱い	曇り	2021年8月9時	手鏝での除草作業をしていた被災者が刈割りとしていた草の束に縁が引っ掛かり無理な力をかけ引っ張ったため負傷した。	わずかな作業面積だったため、刈払機を使用することなく、すぐに終わる作業量だと考え、日々行っていた作業だったため油断があった。	緊急安全大会を行い、情報の共有、再発防止について話し合う。使用する手鏝は、日頃より手入れを行い、よく切れるものを使用する。手鏝使用による除草時に手鏝が車庫に引っかかった場合は、束の量を減らして実施するよう指導徹底する。手鏝での作業時は手の初期予防のための前切手袋の着用を徹底する。手鏝を使用する際に予想される危険予知について関係者全員に周知する。
955	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	土砂崩壊	曇り	2021年8月10時	湧水処理用の断面掘削後、排水管設置作業中に掘削法面が崩壊したため、掘削断面にいた作業員が土砂の勢いで反対側の法面まで押され、崩れた土砂により被災した。	掘削中に想定していない地盤の変化が見受けられたが、報告もなく作業を継続した。掘削断面の地質変化について、安全な勾配を確認せず、安全であると誤認し、次工程へ移行した。	掘削作業中に土質に変化が見られた場合は、その都度、作業を一時中断して監督職員へ報告し、土質に見合った安全な掘削勾配を確保する。地山の自立が困難な場合は土留工など土砂崩落防止の措置を講じる。掘削断面で人力作業を行う場合は、その都度、掘削後の土質、勾配、湧水の有無を確認し、次工程を開始する。
956	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	墜落	晴	2021年8月10時	既設の掘込式沈砂池上に堆積砂除去用橋式クレーンを設置する作業中、被災者が架台内側のボルトを固定しようとした際から内側の沈砂池端まで移動した際、自らバランスを崩し沈砂池内部に安全ネットと躯体の隙間から落下し負傷した。	架台設置作業前までは面を固定していたがクレーンでの架台設置時に空中で面と接触する可能性があったためボルト固定で設置が完了するまで転倒と安全ネットで対応していたが、架台を放した段階で接触の可能性がない面への設置が可能であったにもかかわらず再設置してしまっていた。墜落の危険があることを認識していたにもかかわらず、指示に反し観望から安全帯のフックを外して沈砂池端へ侵入した。	作業の妨げになるとして一時的に撤去する面等については、可能となった時点で速やかに再設置することを徹底する。高所の作業床での作業に当たっては安全監視員を配置し、作業員の安全帯着用等についてのチェックを徹底する。安全ネットと躯体との間に隙間が生じないよう、固定箇所を増やすなどその設置方法を工夫する。
961	道路	とび・土工・コンクリート	法面工事	法面工	労働災害	その他	曇り	2021年8月15時	工事に支障となる立木の伐木作業中、作業員側に倒れてきた。あらかじめ退避場所を選定していなかったため、避難行動の際に怪傷を負った。	倒れた作業で油断していた。退避場所を設けていなかった。作業手順に具体的な方法がなかった立木の事前調査を行っていなかった。受け口の作成不備。	
968	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	第三者災害	クレーン等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2021年9月11時	型枠設置作業にあたり、仮置きされた型枠を吊り込むためにブームを伸ばし、ブームを下げた際にクレーンが転倒した。	固定・昇降部型枠組立作業において、下流側は「移動式クレーン作業計画書」に記載のとおり、型枠吊り込み作業を安全に行っており問題なかったが、上流側の作業において、組立順序と合わずに積み重ねられていた型枠を作業員がクレーン作業半径を超えて組立順番に並び替えてしまったこと。当該作業において、クレーン過負荷防止装置がoffになっていた。	移動式クレーン作業計画書、作業手順書の見直し。作業計画書を作業従事者に作業箇所にて周知徹底し、作業内容が変更になった場合は再度作業計画書を見直し再周知する。作業前・作業中に担当技術員が過負荷防止装置のスイッチがONになっているかを点検・確認する。クレーン性能表を作業箇所に掲示し、確認できるようにする。現場で作業半径が見えるようカラーコーン等を設置する。
991	道路	鋼構造物	鋼橋上部工事	鋼桁橋、箱桁橋工	第三者災害	クレーン等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2021年9月13時	吊足解体作業の為にクレーン据付にあたり、数鉄板上へ据え付けての作業としなかった事によりアウトリガ一部が陥没してクレーンが転倒し、ブーム部分が作業ヤード隣の河川敷地に転倒した。	軟弱地盤上に数鉄板を敷設せず「アウトリガ」を張り出しクレーンを据え付けた。クレーンの据え付け場所についてクレーンオペレーターが作業責任者に確認を取らなかった。合図者の指示なく作業を開始した。	クレーン作業手順を改めて作業従事者全員に再周知し、クレーン据え付け時には必要な数鉄板を敷設し、作業責任者の指示を確認してからクレーンを据え付ける。「移動式クレーン作業計画書」に基づき作業責任者が決定したクレーン据付箇所について、元請職員が再度確認し危険が無いと判断してからアウトリガの張り出し・設置の準備を行う。また、アウトリガ「張り出し」に伴い落下し懸いの作業責任者及び元請職員が確認・異常がない場合に作業を開始する。また、合図者の指示に従い作業を開始する。
1001	その他	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2021年9月9時	土砂処理場へ走行時に、緑石に乗り上げ制御不能になり横転した。	運転中のよ見及び前方不注意	車両の運行を含め、事故防止の徹底を図るよう指導。
1009	農業農村整備	土木一式	水路・管路工事	ボックスカルバート・管路工	労働災害	墜落	曇り	2021年10月9時	写真撮影箇所確認のため、斜面部の脚立を上がっていた際に、踏み外し転落して負傷した。	傾斜部の昇降に脚立が設置されていたが、安全に昇降可能な設備ではなかったため、バランスを崩した。	安全標識等の設置により、移動する際の動線上にも危険箇所があると注意喚起する。安全教育において、作業内移動に係る危険箇所があることについて教育を徹底する。安全巡視の際に、安全標識等の設置状況を点検する項目を追加する。昇降施設に手摺りを設ける。
1018	海岸	土木一式	海岸構造物工事	海岸構造物工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2021年10月8時	バックホウのバケット交換を行った際バケットが落下し負傷した。	なれによる危険性への軽視。作業手順書の内容が具体的ではなかった。	臨時安全教育実施、作業手順書の改正及び安全ハットロールの回数増加。
1048	道路	土木一式	地滑り防止工事	地滑り防止工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2021年11月0時			
1076	河川	土木一式	樋門・樋管工事	樋門・樋管工	労働災害	倒壊	曇り	2021年11月15時	仮橋切内の軟弱地盤で矢板をクレーン仕様で建込み作業中に、矢板を所定の位置に設置し、矢板が自立する前に作業員が吊り外し矢板が倒れた。	工程への影響を優先したこと。工法を変更した際に、作業方法や手順、留意事項が作業従事者全員に周知されなかった。	災害事故防止会議を開催し、当該事故発生状況・事故原因の分析・再発防止対策の検討等を行い、再発防止対策を決定した。
1083	道路	土木一式	コンクリート構造物工事	橋梁下部工(橋台、橋脚)	労働災害	取扱運搬等	曇り	2021年11月13時	公道で凍結に気付かず転倒した。	凍結した公道で凍結に気付かず転倒した。	冬期で路面が滑りやすく注意が必要な状況であることや、当時一人で作業しており状況を確認できなかったことから、安全教育を再確認・再徹底することを確認済み。
1102	河川	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	その他	曇り	2021年12月9時	現場内で道具を探している時に、段差を降りたところ、地面が凍結しており、滑って転倒した。転倒箇所は本来凍結してはなかったが、見出し用に設置されていたトラロープが作業上取り外されていた。	雪が降って凍結箇所がわからなくなっていた。本来設置してある除雪用の見出しが撤去されており通行できるようにになっていた。	緊急安全大会実施。
1124	河川	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	労働災害	その他	晴	2022年1月10時	冬季河川の結氷による閉塞除去作業を進めていたが、河川に降りていた作業員が重機作業への交代合図により、河川より上りようとしていた時、上流側に蓄積していた氷雪の塊が予期せず流れ出して押され転倒し、下流へ流れ氷雪等に接触し負傷した。	危険時にすぐに回避できる昇降梯子を通切な位置に、随時移動していなかったため、回避に遅れが生じた事。	
1135	河川	とび・土工・コンクリート	土工	掘削又は切土工	労働災害	飛来、落下	晴	2022年1月13時	バックホウにて伐採木の集積作業を行っていたところ、集積した伐採木の枝払いをしようとした際に近づいた被災者と、バックホウで集積しようとした枝採木が接触した。	集積作業の監視員をしていた被災者が集積作業が終わったと思い込み、周囲の確認およびオペレータへの合図を怠った状態で、かつ指示されていない作業をするために危険箇所へ急に侵入したため。	作業前ミーティングで指示された人員配置と担当業務内容は絶対に変更しない。変更するときは再度、打合せを行い指示事項を徹底させる。重機に近寄るときは必ずオペレータに合図し、その後、重機のエンジンが切れていることを確認した上で重機に近寄るよう周知徹底させる。重機・作業員ともとの作業場所へ移動する時は必ず周囲を見渡して移動することを周知徹底させる。重機の作業半径を示したカラーコーンにコーンバーを付け付け作業半径内に立ち入らないことを周知徹底させる。また作業フローを作成し作業内容を明確化し周知徹底を図る。安全ハットロールの実施頻度を増やして安全管理を強化する。
1143	道路	とび・土工・コンクリート	法面工事	法面工	労働災害	墜落	曇り	2022年1月8時	移動式クレーン本体の除雪作業中、後部ウエイト部分から足を滑らせクレーン本体上へ落下した。	クレーンウエイト部の歩行箇所が雪で滑りやすくなっていた。	
1172	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	第三者災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2022年2月10時	除雪ドーザーで除雪作業中、後方確認不足で走行してきた一般車両と接触した。	除雪ドーザー作業時の後方確認不足が主たる原因である。	除雪作業安全確認の再教育を実施する。除雪ドーザーによる除雪作業においては、必ず助手を同乗させ、後進時には後方確認の徹底を一時停止。また作業は一般車両を優先し、車両の通過を確認してから作業する。
1203	機械	鋼構造物	水門扉等工事	ダム用水門扉工	労働災害	墜落	曇り	2022年3月15時	ダム堤体常備洪水吐予備ゲートにおいて、清掃やタッチアップ等最終確認中墜落した。	ダム・堰施設技術基準を満たした手摺が設置された点検歩廊内を移動中、安全帯、ヘルメット、安全靴等を装着していたものの、開口部付近では安全帯を使用していなかったため、何らかの要因でバランスを崩し開口部から墜落したと推察される。開口部には安全対策として立入禁止用チェーンが張られている。	安全基準を満たさず手摺が設置された点検歩廊内を移動中、安全帯、ヘルメット、安全靴等を装着していたものの、開口部のある作業場所では、作業開始前のミーティング、朝礼等により作業員へ周知すること、作業員全員で目視により現場確認した後に作業を開始する。開口部からの墜落、転落を防止するため踏板等を設置する。開口部に踏板等の設置が行えない場合は、立入禁止措置のチェーンの他に「開口部注意」の表示板を設置し、注意喚起を行う。
1261	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	第三者災害	その他	曇り	2022年6月14時	仮設落石防護柵の取替作業中に水道管を破壊した。	事前の水道管理者との埋設物確認打合せにより把握した埋設物位置情報と異なる位置に水道管が存在したこと、事前の図面による位置確認していなかったことより発生した。当該作業は継続的に同一法線・工法にて問題無く施工した経緯から、慣れによる注意不足が生じた埋設物の警戒、作業注意が欠如したと判断する。	施工物が地下埋設物に近接する場合は、予期せぬ方向にずれる場合もあることを想定し、必ず把握する。立金を行い、確実に目視確認し、埋設位置を明確にすることで事故防止に努める。単管の掘入れ深さを確認できるようにここに印を付けて既設歩道舗装の天端高さを基準に剛孔深さを確認しながら作業すると周知徹底する。
1282	河川	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	その他	雨	2022年6月10時	地面の窪みの縁を降りる際に足を滑らせ、転倒した。	地面の窪みの縁を降りた際に足元は見えていたが、荷物を持った状態であったため、滑った際にそのままバランスを崩してしまっ	調査員の経験等を考慮し、安全ルート事前に選定。見逃しが多い場所を移動する際は、事前に移動ルートの確認、安全確保を徹底。転倒の危険がある箇所は掘削機は掘削機、危険箇所を確認した場合は調査員への周知徹底、荷物の運搬は緩く分け、の荷物を極力抑える。また、荷物は転倒対策として可能な限りリュック等を使用する。

工事分野	工事の種類	工種	工法・形式名	災害分類	事故分類	天候	事故発生年・月・時間	事故発生場所(都道府県)	事故に至る経緯と事故の状況	事故の要因(背景も含む)	事故発生後の対策	
1288	道路	土木一式	その他土木一式工事	労働災害	その他	晴	2022年7月6時	北海道	基礎ブロックに移動する際に飛び降り、足を負傷した。	危険と思わず不安全行動をした。	緊急安全大会を実施、災害防止協議会を開催、再発防止対策計画書作成、作業手順書の見直し及び施工計画書提出	
1317	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	その他	晴	2022年7月11時	北海道	被災者は体調が悪くなったため最後の休憩時に休憩時間の延長を申し入れた。熱中症であった。	天気および風が弱い暑い日だった。被災者は仕事に復帰したばかりだった。	新規就労者に対し計画的に気温への順化期間を設け現場の環境に適応させる配慮に努める。毎朝のRKY時に行っている体調チェックに加えて休憩中に体温計・心電図計・血圧計・酸素飽和度を計測し、朝・昼・夜、休憩時の巡回時には元請職員が直接状況確認を実施する。作業員1つ1つ作業スペースを確保し、クーラー・作業服・ヘルメット・作業現場近く移動し、更に利用しやすい環境とする。WBGT基準値を基に現地状況の熱中症リスクを確認し、発生の危険性が高い場合は、こまめに休憩を取る指導を行い監視の頻度を上げ作業員への声かけ等の対策を行う。救急処置を関係職員に配布し周知する。職場における熱中症予防対策マニュアル・熱中症事故事例を基に安全訓練を実施し、意識の向上を図る。
1355	道路	舗装	アスファルト舗装工事	アスファルト舗装工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2022年9月4時	北海道	ラインマーカー車を外側線表示開始位置へ移動させる際、作業分担外である位置確認補助を行った被災者が転倒し、後進してきたラインマーカー車に接触した。	施工計画で機械作業における移動時は誘導員を配置することとしていたが、ラインマーカー車の移動時に誘導員を配置しなかった。区画線作業時の手順書は作成していたが、ラインマーカー車の移動時の作業手順が記載されていなかった。オペレーターの独自の判断で、被災者の作業員に対し、ラインマーカー車の後方作業計画に記載のないラン位置の確認補助を行わせた。	ラインマーカー車の移動時には、運転手と情報伝達可能な誘導員を配置し安全確認を行うラインマーカー車の手順書に、移動時作業手順を記載する。計画外の作業その場凌ぎで作業させない、再発防止にかかるリスクマネジメントに基づく対策について、受注者は施工計画書に明記するとともに、安全教育や作業前ミーティング等により作業従事者へ周知徹底を図る。
1366	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	墜落	晴	2022年9月8時	北海道	トラックで運搬された資材の前倒し作業中、吊り上げられた資材に介種ロープが取り付けられていないこと気づき、オペレーターに合図せずに、車両背面の左後方から荷台に乗り込んだ。人影らしきものを荷台に認知したオペレーターは、クレーン操作を緊急停止。被災者は、資材の動きが停止したことから、宙ぶりの資材に右手を添えながら、荷台のアオリの上立ち、資材固定ロープをベルトスリングに取り付けた。その際、被災者が添えていた資材がゆっくり回転し始めたことから、被災者は姿勢を崩し地面に転落した。	作業計画書及び作業指示に従わず、クレーン操作者と合図で対応可能と自己判断し、資材の取り回しを開始させた。合図であるのにクレーン操作員への必要な合図をすることなく吊り上げにつき、荷台のあたり不足を掛けて作業を行うなど極めて不安全な計画にない行動を取ったことにより発生した。	計画通りの人員配置、介種ロープの確実な取り付け等をチェック出来るよう作業計画書を携帯させるとともに、有資格者の作業の確認を徹底するため資格一貫を提示し、朝礼等を通じて周知徹底を図る。荷台の昇降は固定式を使用すること、作業床幅は確実に確保することを作業計画書等に明記し改めて周知徹底すると共に、荷台への昇降箇所の明示とありへへの足かけ禁止も明示する。ヘルメットや安全チェックを合図者・玉掛け・クレーン操作員の役割を明示することで、各自の意識向上を図る。
1381	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	曇り	2022年9月7時	北海道	ブルドーザーの排土板組立作業中、排土板とブルドーザー本体を接近させるため排土板の裏側でオペレーターに合図を送っていた。排土板のフレームを固定するための脚台が外れ傾き、排土板と合図者が接触し被災した。	合図者の立ち位置が不適切であった。作業手順書に合図者を含む、作業員の立ち位置、台木の形状など具体的な記載が労働災害防止に配慮した手順書となっていなかった。	合図は排土板の前側で行うことを徹底する。合図が見えない場合は、排土板前方に土堤を設け合図を行うものとする。また、監視員を配置し作業全体を監視する。フレームが台木から落ちることがないように、揺動・地盤状態を考慮し十分な大きさのものを使用することを徹底する。また、台木の揺動状態についてもフレームを載せる前に必ず確認を行う。作業手順書を作業員の配置、台木の形状など具体的な記載に見直しを行い、作業手順書に従った作業を行う。
1386	道路	土木一式	トンネル工事	NATM、矢板トンネル、TBM	労働災害	取扱運搬等	曇り	2022年9月16時	北海道	ユニークを使用して、仮置場からトンネル坑内に仮置きする作業を行っていた。荷を仮置き箇所へ回転し降下している時に、ベルトスリングと台木が重なること気づいたため、吊り荷の下で調整作業を実施したところ、吊り荷のバランスが崩れ落下し、吊荷と台木の間に挟まれた。	ベルトスリングを目視しておらず、長短長さの違いを吊った為、吊荷の重心位置が不明確となりバランスが崩れて被災者の手を挟んでしまった。事故当日は切羽作業の遅れにより、予定作業をこなすには残業が必要であった為、作業を急ぎ手順書とは違う方法で作業をしてしまった。	朝礼時に当日の特定作業計画書・作業手順書を徹底する意味で全員で復習するとともに、必要に応じて現場内に掲示し、携帯させることで、意識向上を図る。ベルトスリングを絞っての玉掛け、介種ロープの使用、吊り荷の下に入らない、長さの違う材料を一纏めにするなど、玉掛け位置のマーキングを徹底するため、支保工積込部卸し作業時、作業責任者だけでなく、元請担当職員が立ち会い、実施状況を確認する。現場巡回時の点検時の見直しを行い、手順通り作業していることを確認できる様なリストを作成する。作業の進捗状況に応じた適切な工程への見直しの徹底。元請職員による巡回を強化するとともに、作業内容に応じた巡回時間とする。
1387	道路	どび・土工・コンクリート	法面工事	法面工	労働災害	クレーン等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2022年10月10時	北海道	移動式クレーンにて集水庫を吊り上げ、設置位置の機調整を行っていた際に、運転手の不意な操作レバーへの身体接触による誤動作が原因により、移動式クレーンが急旋回し、手元作業をしていた作業員が吊荷と床掘断面に挟まれた。	移動式クレーン運転手は作業指揮者の指示に基づき、作業を行っていたものの不意な操作レバーへの身体接触による誤動作が原因により、移動式クレーンが予期しない方向に移動した。不意な操作レバーへの身体接触、移動式クレーンの予期しない稼働に対し、回避困難な位置に作業員が位置していた。	不意な操作レバーへの身体接触がないようあらゆる要因を排除するよう対策を図る。衣類の操作レバーへのひっかけり防止のため服装は整え、かさばる服は脱いで作業する。窓を閉めて害虫の侵入を防ぐ。作業中は直ぐはなれないよう確認する。合図者の指示に従い落ちないよう確認し、一連の作業終了まで不用意に体を動かさない。作業員は移動式クレーンの旋回方向を確認し、最も安全と考えられる位置に確保する。労働安全監督官の指導等を行うよう再発防止対策を図る。退避スペースを設ける。作業半径をより小さく、クレーン・能力に余力を持たせる。クレーン仕様の回転点灯を運転手以外も確認する。操作時はシートベルトを着用する。作業計画書通りの配置であるかおよび合図方法を確認する。退避スペースの確保が出来ない場合は昇降階段設置など別方法を検討する。作業計画書に実際の作業半径および定格総重量を記載する。
1405	河川	土木一式	築堤工事	築堤工	労働災害	墜落	晴	2022年10月8時	北海道	バックホウオペレーターが、接履席から降りようとして両手で昇降手すりを握り、片足をキャタピラに着き三点支持で降りたところ、足を滑らせて下の作業用安全通路の敷板上に落ちた。	両手で昇降手すりを握っていたものの、慣れによる油断があり、握り方が緩かったことで、両手で体を支えることができず落ちた。	バックホウの操縦席への搭乗通路について、昇降階段・足踏・滑り止めのマットを設置して、土の上を歩かないようにし、靴底に泥等が着かないようにする。併せて、昇降階段側に蹴出し場を設置する。バックホウ操縦席への昇降について、三点支持で行うよう再度注意喚起する。併せて、慣れによる油断をしないよう周知する。ヤード端部に墜落防止柵を設置する。
1406	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	第三者災害	その他	雨	2022年10月12時	北海道	仮設ガードフェンスの設置作業を実施していた所、強風により、被覆番帳による結束を行っていなかったガードフェンスが歩道側へ転倒し、付近を歩行していた被災者に接触した。	仮設ガードフェンスは、既設の柵と結束固定した後、隣のフェンスと連結する手順としていたが、当日は強風により、フェンスの転倒の心配は無いと判断し、隣のフェンスとの連結を先行し、全ての連結後に、まとめて柵との結束固定を行うこととして、元請の指示を仰がずに、手順を変更して作業を進めた。	同様の現場内事故防止にあたり、今までと同様に作業前ミーティングにおいて、作業手順の遵守を徹底すると共に、作業方法が現場と合わない場合は即座で判断せず、元請の指示を仰ぐことを徹底する。元請職員による、手順通り作業が行われていないか確認すると共に、即座で対応を行う。設置作業中は、転倒防止措置が完了するまで、第三者に接触及びはなれないよう誘導員を配置する。作業途中で休憩のために作業員が現場を離れる場合は、元請職員が安全確保に努める。仮設ガードフェンスの歩道側への転倒防止するため、設置位置を歩道境界柵の歩道側には無く、車道側への設置とし、車線切り替え時に車道側からの作業とする。
1411	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等		北海道				
1416	農業農村整備	土木一式	水路・管路工事	ボックスカルバート・管路工	労働災害	飛来、落下	2022年10月13時	北海道	仮設排水管撤去作業において、切断した排水管をバックホウにより吊り上げるためのスリングベルトを取り付けの際、スリングベルトを取り付けやすするため、地面に置かれていた排水管をバックホウのバケットにて浮かせたところ、排水管のバランスが崩れ落下し、作業者に接触した。	パイプ等転がりやすい吊荷への玉掛け作業は、吊荷を台木の上に置き止めを設置してから行うべきであるが、今回の事故現場では、吊荷となるパイプが掘削断面中腹にあり、台木設置が困難であった。遺留施工を急ぐ中、任意仮設施設撤去という安易な考えがあった。塩ビ管は軽いという思い込みがあった。	パイプ等転がりやすい吊荷への玉掛け作業は、吊荷を台木の上に置き、止めを設置してから行うという、基本を忠実に守る。作業手順書に記載がない作業は行わない。また、手順書の作業が困難な場合は、必ず作業手順の見直しを行い、再発防止に努める。	
1417	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	その他	晴	2022年10月14時	北海道	被災者は、通行止めしていた際に使用したリキード等安全施設の撤去集積状況を確認するため、道路を移動中、一般車両が通行したため避けようとして後ろ向きで下がった際、股み出し、側溝天端に打ちつけた。	被災者は土木作業員未経験者で入場から7日も深く危険箇所への認識が低く、回避行動も後ろ向きに行ったことで被災することとなった。	作業員・工事箇所へ訓練があることを再周知するとともに、作業箇所に近い閉口部及び転落の恐れがある箇所へ注意喚起のためカラーコーンを設置する。土木未経験者への教育において、新規入場者教育資料のほかにも、現場にあったバーチャルを利用して危険箇所の認識や回避方法を指導し教育効果を高める。
1424	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	第三者災害	その他	晴	2022年10月9時	北海道	排水管改修に伴う掘削作業中に掘削法面が崩れて水道管空気弁の保護管が転倒し、埋設されていた水道管管管が破損し漏水した。	凍上抑制層等から保護管へ経年的に見えないみずみちが生じ、目視で確認できない土砂の崩れが発生していたことが要因と推察される。	掘削箇所の近接部に保護管等がある場合は、先行して上部からのつぼ掘りにより保護管の撤去を行う。つぼ掘りにあたっては、管の周りを均等に掘削し、保護管の傾斜や地山法面等の亀裂や湧水等がないことを確認しながら施工し、管の転倒防止を図る。上記について、作業前に作業員へ作業手順書等により周知徹底する。
1427	河川	土木一式	築堤工事	築堤工	労働災害	その他	その他	北海道	被災者が通路法面に倒れ転倒した。	通路法面に昇降施設が無かった。	作業通路の整備として、法面箇所に昇降階段を設置。また、渡り箇所の幅を広くし、手摺を設置。朝礼等で転倒予防に関しての注意喚起を促し、転倒事故防止に努める。	
1443	道路	維持修繕	維持修繕工事	維持修繕工	もらい事故	その他	晴	2022年11月13時	北海道	車道雨水樹蓋の取替作業中、停車している作業車に乗用車が突っ込み路上で作業していた作業員に接触した。	乗用車運転手の前方確認不注意。	
1447	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	第三者災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2022年11月10時	北海道	バックホウが建物に向かって左旋回した際に架空線を切断した。	のぼり旗やケーブルピンチ等の注意喚起、簡易ゲートなど安全対策がとられていなかった。倒った記載のまま、当日のKY活動を実施した。作業計画書に遵守した施工になっていなかった。作業手順書でバックホウを解体箇所へ移動する際の誘導が手順書に遵守していない。また、架空線接触への配慮がなされていない。作業計画から当日のKY活動まで安全管理への意識が希薄となっていた。	門型ケーブル、架空線注意警報旗及びケーブルピンチ設置などの基本的な対策を徹底する。作業前に作業計画を現場で確認し後に施工計画に記載より詳細にする。柵と杭打機リーダの連絡全員はバックブロックのフェンスより切断のしずいワイヤーに変更するとともに、鋼管杭建込完了後にはそのワイヤーを取り外す。杭施工前に凍土をバックホウで除去し杭挙動を防止する。重機作業計画書に役割分担及び氏名を記載し、より明確にする。
1461	電気	機械器具設備	機械器具設置工事	トンネル非常用設備工	もらい事故	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	2022年11月15時	北海道	トンネル工事のため片側交互通行により規制している最中、誘導員が該当車両を静止し運転手と対話していたところ、運転手が車両を突然発進させ誘導員に接触し転倒させた。	運転手が車両を突然発進させたことが要因。		
1476	道路	土木一式	土地造成工事	土地造成工	第三者災害	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	強風	2022年12月7時	北海道	事故車両が浸水時、開けた状態となっていた通行止めゲートが突風により勢いよく閉まり、ゲートと車両が衝突した。	通行止めゲートの開閉時の点検、固定の徹底。注意看板の設置。いかなる状況でもゲート管理者を配置し、管理下のもと工事車両を往来させる。通行止めゲート前、一時停止を義務づけ、あわせて一時停止看板を設置する。	
1487	道路	どび・土工・コンクリート	既製杭工事	既製杭工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2022年12月20時	北海道	鋼管杭落下防止のため、杭打機リーダと鋼管杭をレバーブロックにより連結していたが、アースオーガと杭の間に凍土が挟まり、氷が回転しない鋼管杭が回転したことにより、レバーブロックのチェーンが切断落下し、下方付近で施工作業を実施していた作業員と接触した。	重機稼働中、作業員が鋼管杭の位置確認を行った。杭打機リーダと鋼管杭を連結しているレバーブロックを鋼管杭建込完了後に取り外す手順となっていた。地盤凍結により、オーガによる地盤掘削で凍土が、鋼管杭とオーガ間の目詰まりで鋼管杭が回転した。重機作業計画書における作業員の役割分担に不明確な部分がある。	合図者は重機オペへ停止指示を行い、停止確認後に鉛直確認を行わせる。また、水平器での鉛直確認時における安全対策については、施工計画に記載より詳細にする。柵と杭打機リーダの連絡全員はバックブロックのフェンスより切断のしずいワイヤーに変更するとともに、鋼管杭建込完了後にはそのワイヤーを取り外す。杭施工前に凍土をバックホウで除去し杭挙動を防止する。重機作業計画書に役割分担及び氏名を記載し、より明確にする。
1491	道路	電気通信	通信工事	通信工	もらい事故	自動車の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2022年12月14時	北海道	道路情報表示装置の移設作業に伴う片側交互通行規制中、停止位置を超えて進入してきた車両に交通誘導員が接触した。	運転ミスによるものと思われる。	通行規制中に車両が停止せず進入してきた際の危険回避について、交通誘導員全員に教育を行う。通行規制時には、停止位置と交通誘導員の間に、進入車両強制停止装置を配置する。
1498	道路	土木一式	護岸工事	護岸工	労働災害	飛来、落下	曇り	2023年1月13時	北海道	仮設鋼矢張導輪固定杭の引抜き作業中、被災者は退避を命じられたにもかかわらず、落とした手袋を拾うため足場でないゾーンへ立ち入り、スリット導輪と矢張の間に挟まれた。	作業員同士の間隔に差があり、合図者は危険を勘案し被災者に退避を指示し確認後、吊り作業の合図を吊り荷に注目しているとき、被災者がその危険を理解できず危険区域に立ち入ってしまった。	作業計画書に変更になる場合は都度打合せ。危険が予見されたときは危険因子を取り除く。吊り作業時に吊りにへ接近しないよう安全教育の徹底。専任の見張り員を配置し危険箇所への立ち入りを確実に防ぐ。
1501	通信	電気通信	通信工事	通信工	第三者災害	その他	晴	2023年1月9時	北海道	建柱機により試験を開始したところ、水道管に損傷を与えた。	配水管の埋設位置について事前確認が行われていたが、口頭による回答のみで図面の入手、現地立会いが行われていなかった。また、掘削位置の土が凍結していたこと、一般的な水道管を想定したことで建柱機による試験で問題ないとの判断により作業が行われたが、損傷した水道管は凍結防止構造により一般的な水道管より深い位置に埋設されていた。	地下埋設物がある場合には、施設管理者から問題がないとの回答があったとしても、確実に図面の入手と現地立会いを求める試験を行う。
1503	農業農村整備	土木一式	農業農村整備工事	農業農村整備工	労働災害	墜落	晴	2023年1月7時	北海道	被災者が、コンクリート打設の準備のため、防塵用シートを取外そうと、シート止めのバックを取外すため足場でないゾーンへ立ち入り、安全帯のフックを掛け替えようとしたところ、誤って足を踏み外し開口部シートの隙間から墜落した。	コック打設準備中の事故で、コンクリートの打設に関する計画書・手順書は作成していたが、細かい準備作業や役割分担を明確にする資料が無かった。屋根部と開口部が同色のシートで視目が分りづらい状況であった。二丁掛けの安全帯を使用していたので、掛け替え時安全帯が掛かっている状況になっていた。	作業計画書に作業役割分担表を新たに追加し、記載および作業されているか受注者職員が朝、午後現場で確認する。具体的な作業計画書・作業計画書等に記載し、作業手順等を明確化するとともに各作業員に周知徹底する。また、防塵シートの開閉作業の際には、開口部を渡る行為に至らせないよう、各屋根に昇降施設を設置し動線を固定する。開口部には、進入ができないように転落防止柵や転落防止のための柵を設置するとともに、開口部と屋根部が視覚的に分かるようにロープフェーンを設置する。また注意喚起の標識を掲出し、物的的及び視覚的な対策措置を図る。屋根の上で作業を行う作業員には、該当作業員には、親類に安全帯が掛かっている状況が発生しないように、二丁掛け安全帯装着を徹底する。
1536	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2023年2月10時	北海道	工事用進入路土砂撤去・積込作業中において、法面養生用ブルーシートを撤去していた作業員の頭部に、バックホウのバケット部が接触・転倒し、被災した。	ブルーシート破片を回収しようとした被災者が、バックホウの旋回内に立ち入ってしまった。オペレーターは築空的に注視していたことで、確認作業が不足し作業半径内に立ち入った被災者に気付くのが遅れた。	建設機械の作業半径を明確に区画するようリキード・カラーコーン等を設置する。建設機械の単独作業であっても突発的に作業半径内に立ち入らなければならない事象に対応するため、作業に関係する建設機械オペレーター、作業員にインカム等無線通信機器を携帯させ、作業半径内に立ち入る時には無線通信により確実にバックホウが停止するのを確認してから作業を開始する。重機手元の作業員及び誘導者は蛍光色等の安全ベストを着用し、建設機械オペレーターからの視認性向上を図る。作業前に作業方法・合図等の確認・周知を徹底し、作業員の安全衛生意識向上を図る。
1539	建築	建築一式	建築一式工事	建築一式工(1)	労働災害	倒壊	雪	2023年2月9時	北海道	被災者が脚立に乗って型枠組立作業を行っていたところ、隣接する柱に立てかけていた柱型枠パネルが倒れ接触し、脚立から転落した。	被災者に隣接する柱の型枠組立作業を行っていた作業員は、型枠パネルを立てかけた状態でその場を離れた。型枠は足元が壁状の形状になっておりバランスが悪く、作業員が目を見失ったように倒れた。	再発防止策として、型枠を立て掛けないこと、型枠組立時は単独で作業を行わないことを指導した。また、型枠組立のKYシートに型枠立て掛けの禁止を追加し、作業員に再周知した。

工事分野	工事の種類	工種	工法・形式名	災害分類	事故分類	天候	事故発生年・月・時間	事故発生場所(都道府県)	事故に至る経緯と事故の状況	事故の要因(背景も含む)	事故発生後の対策	
1552	道路	土木一式	その他土木一式工事	その他土木一式工	労働災害	その他	晴	2023年3月10時	北海道	小型移動式クレーンを使用し大型縦軸鉄骨の支柱建込中に手元作業員から合図者への声掛けが間違いとなり、被災者が基礎の天端と柱のベースプレート下端で負傷した。	手順書通り行っていなかった。作業に集中していなかった可能性有り。被災者は、合図者へ声を出して合図者を動かしていたが、設置の際、力が入ったときに声が出て、合図を出すよう指示を受けたと間違えし吊荷を下ろしてしまった。	緊急安全大会を実施し、再度施工方法の確認、指示及び監視の強化を行うといった安全管理の周知・徹底を図る。
1554	道路	舗装	アスファルト舗装工事	アスファルト舗装工	労働災害	建設機械等の転倒、下敷、接触、衝突等	晴	2023年3月17時	北海道	交通誘導していた誘導員が、タイヤローラ後退時に轢かれた。	何らかの要因で重機が稼働している作業エリア内に立ち入ったものと推測される。	転圧機械と作業員の接触事故を防ぐために、見張り人を配置し、重機オペレーター、見張り人の双方にトランシーバーを装着し、見張り人の指示により危険がないことを確認しながら転圧作業を行う。重機オペレーターには、前進・後進前の、周囲の安全確認を徹底させ、指差し呼称による安全確認の後、重機を動かすようにした。アスファルトフィニッシャーの周りで作業を行う作業員とマカダムローラーとの接触事故を防ぐために、カラーコーンに立入禁止の表示カバーを付けマカダムローラーが立ち入らないようにする。